

JWF ファンド 2016 フォローアップ 実施報告書

2018 年 6 月
特定非営利活動法人日本水フォーラム



目次

1. JWF ファンドとは.....	3
(1) 概要.....	3
(2) フォローアップとは.....	3
2. フォローアップ活動報告	4
(1) 安全な水供給のためのポンプ設置と WASH 教育（マダガスカル）	4
(2) 農業用の水確保のための雨水貯留（インド）	9
(3) 中・高等学校における衛生設備の修繕・建設と水と衛生の促進（インド）	14

「JWF ファンド 2016 フォローアップ実施報告書」（本紙）は、現地活動を行った現地団体による成果報告資料を元に作成しています。

日本水フォーラムは、現地団体からのプロジェクト提案書に基づいて活動内容を審査し、採用した団体へ活動資金の助成を行っています。現地活動、及び、フォローアップ調査は現地団体によって実施されており、日本水フォーラムはその実施には携わっていません。

本紙の記事および写真などの著作権は、日本水フォーラム、または現地の実施団体に帰属します。本紙に掲載されている内容を引用・転載をご希望の際は、下記連絡先までご一報ください。

発行元：

特定非営利活動法人日本水フォーラム

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町 5-4 アライズ第 2 ビル 6 階

TEL: 03-5645-8040 FAX: 03-5645-8041

E-mail: jwffund@waterforum.jp

1. JWF ファンドとは

(1) 概要

JWF ファンドは、2005（平成 17）年に日本水フォーラムが設立し、独自に運営する助成基金です。発展途上国の水問題解決のために草の根活動を行っている団体を対象に、毎年プロジェクトを公募し、採択された団体には1プロジェクトあたり 1,000US ドルを上限とした支援を実施しています。この基金は、日本水フォーラムの会費や、一般の方から Charity for Water に寄せられた寄付等により運営されています。

JWF ファンドは、1 プロジェクトあたりの支援金額の上限を 1,000US ドルとすること、草の根活動を実施している現地団体の活動を支援すること、現地に適した技術と方法を用いて実施することを基本原則としています。現地活動の実施を現地団体に完全に任せることにより、日本水フォーラムが直接その実施に携わる場合に発生する経費を削減し、成果を得ることを大きな特徴としています。

この助成により、過去 13 年間で 163 件のプロジェクトを支援し、アジア太平洋、アフリカ、中央アメリカ、南アメリカでの総受益者数は 196,000 名を超えました。

JWF ファンド 2005～2017 の支援実績

- ◆ 支援件数：163 件
- ◆ 総支援額：161,531 US ドル
- ◆ 総受益者数：196,738 人
- ◆ 水供給設備数：475 基
- ◆ 衛生設備数：397 基
- ◆ 啓発活動数：404 回

（2018 年 5 月 22 日現在）

(2) フォローアップとは

JWF ファンドは、現場の課題やニーズに効率的かつ効果的に応えることを念頭に活動しています。JWF ファンド 2014 で支援したプロジェクト以降は、現地団体の協力により、フォローアップとして活動終了から約一年後に課題やニーズにどのような変化が見られたか、効果や影響に関する情報収集を実施しています。

JWF ファンド 2016 では、トーゴ 1 件、マダガスカル 1 件、タンザニア 1 件、パキスタン 1 件、インド 2 件の計 6 件を支援しました。フォローアップ 3 回目となる 2017 年は、JWF ファンド 2016 で支援した 6 件のうち、過去にフォローアップを実施したトーゴを除く計 5 団体にフォローアップ実施の打診をしました。その結果、実施承諾 3 件、未回答 2 件となりました。実施承諾の回答を得たマダガスカル 1 件、インド 2 件の計 3 件の団体の協力のもと、活動完了から約 1 年が経過した現場の状況を以後に示します。

2. フォローアップ活動報告

(1) 安全な水供給のためのポンプ設置と WASH¹教育 (マダガスカル)

1) JWF ファンド 2016 プロジェクト実施概要

- 実施団体：Grassroots Climate and Livelihood Actions (GRACLIA) (#108)
- プロジェクト名：安全な水供給のためのポンプ設置と WASH 教育
- 実施国・地域：マダガスカル、アンツィラナナ州
- 実施期間：2016 年 11 月～2017 年 3 月
- 受益者数：600 人（女性 170 人、男性 180 人、子ども 250 人）
- 費用：985.9 US ドル（JWF ファンドより 977.5 US ドル、地域住民からの寄付 8.4 US ドル）



実施地の課題

マダガスカルの人口 2,200 万人のうち、およそ 80%は公共サービスや施設がほとんどない農村地域に住んでいる。アンツィラナナのアンパンドロアントシリティ村では、村から数百メートル離れた川で女性や子どもたちが食器洗いや洗濯をしているが、その川の水は同時に飲み水や料理用としても使われている。住民の多くはトイレを持っておらず川近くで排泄するため、川を媒介としてコレラや下痢症、腸チフスなど病気が発生している。さらに川の上流にはゴミの投棄場があり、水が汚染されている。

プロジェクト実施事項

- ◆ 事前説明会の実施
- ◆ ハンドポンプ付き井戸を 3 基設置
- ◆ 利用者組合を設立

¹ WASH（Water, Sanitation and Hygiene）とは、基本的な水と衛生を指す。

参照元：日本ユニセフ協会ウェブページ ユニセフについて＞主な活動分野＞水と衛生
https://www.unicef.or.jp/about_unicef/about_act01_03.html

- ◆ 水の浄化に関する啓発活動を 3 回実施
- ◆ ゴミ投棄場の清掃

これらの活動により、アンパンドロアントシリティ村の住民が安全な飲み水を利用できるようになったため、汚染された水に起因する病気の減少が期待される。

JWF ファンド 2015 実施前の様子



住民が水源として使用する川



水源上流のごみ投棄場

JWF ファンド 2016 実施の様子



水の浄化に関する啓発活動

JWF ファンド 2016 実施後の様子



完成したハンドポンプ

2) フォローアップ結果

フォローアップは、2017 年 12 月 29 日、Ms. Sylvia Paulot (GRACLIA のスタッフ) により実施された。

◆ ハンドポンプ付き井戸

- 建設した 3 基のハンドポンプ付き井戸のうち 2 基は使用されているが、1 基は設置場所が不適切であったため、使用されていない。
- 使用されていないハンドポンプ付き井戸は、水田の近くに位置しているため、泥のにおいが増し、特に雨季の後には泥のにおいが強くなる。
- このハンドポンプ付き井戸を使用していた住民たちは場所の移転を望んでいるが、このハンドポンプ付き井戸の利用者組合のリーダーに移転費用を支払う住民はわずかしかない。
- ハンドポンプ付き井戸の部品は、利用者からの依頼を受けてトレーニングを受けた住民がその都度取り換えている。
- 2 基のハンドポンプ付き井戸の水量は生活用水を得るには不十分である。このため、洗濯や水浴びのために川を利用する住民もいる。住民によると、ハンドポンプ付き井戸から水を汲むのに数分待たなければならず、待ちきれない住民は、飲み水と料理用の水以外の生活用水は、川から得ている。

◆ 利用者組合

利用されている 2 基のハンドポンプ付き井戸の利用者組合は、機能している。この利用者組合は、修理が必要になったときに住民から修理代に充てるための費用を徴収している。利用者組合のリーダーの取り組みは住民に認められており、苦情は発生していない。

◆ ゴミ投棄場

プロジェクト完了後、村の近くを流れる川の上流にあったゴミ投棄場が閉鎖された。これによる問題は起きていない。もともとは 15 キロ離れた町の住民がゴミを捨てていたが、今は村の住民が作物栽培のために使用している。

◆ 人々の変化

- ハンドポンプ付き井戸の導入後、住民はこの井戸から汲んだ水を料理や飲み水に使用している。結果として、川の水を飲み水に使用する住民は減り、人々は洗濯に川を使っている。
- 地域の結束はプロジェクトを通じて強固になり、特に機能している 2 基のハンドポンプ付き井戸は適切に維持管理されている。更に多くの住民たちが、汚れた川の水の使用を止めるため、ハンドポンプ付き井戸の設置を望んでいる。

現場からの声

- ◆ バナさん（36 歳、女性、利用者組合のリーダー）
 - 家から遠くない場所でハンドポンプ付き井戸を使えるようになって、私も家族も助かっています。以前料理と飲み水用に使っていた川の水よりずっときれいです。周りの住民と同じようにとても幸せです。おかげでたくさんの人々の生活がよくなりました。
 - 以前、川の水でお米を炊いたとき、米の先が奇妙なオレンジ色になったことがありました。今はハンドポンプ付き井戸の水を使っているので、そのようなことはもうありません。それに、今は毎日時間を割いて、川まで水を汲みに行く必要もありません。子供たちは学校から帰ってきた後、川へ水汲みや皿洗いに行っていました。今は村でこと済みます。私たちの生活が大きく変わりました。
 - 私が利用者組合のリーダーであることで、ハンドポンプ付き井戸の修理に必要なことは全て自分でしないといけません。他の人々は、私に責任があると思っていますので何もしないのです。ある日には、修理のためにハンドポンプを歩いて運ばなければならませんでした。利用者から集めたお金は私の交通費に充てるには十分ではなかったからです。利用者の大半は貧しいので、もっと払うよう強いることはできません。
- ◆ ヴェロボダさん（45 歳、女性、水の浄化に関する啓発活動の参加者）
 - 啓発活動に参加してから、飲み水をきれいにするために Sur'eau(アフリカで広く普及している水の浄化剤)を定期的に使うようになりました。しかし、お店で手に入らなくなり、今は使っていません。
 - ハンドポンプ付き井戸は私たちにとって重要で、毎日使っています。おかげで生活が楽になりました。以前のように水汲みのために時間を無駄にしないで済みますし、川の水より良いです。娘に頼まなくても、近くにこの井戸があるおかげで、いつでも自分で水を汲みに行けます。余った時間で娘の勉強を見てあげたり、ほかのことに充てることが出来ます。
 - この村で我々が直面している最大の問題の一つはきれいな水です。ハンドポンプ付き井戸はまだ全ての住民の需要を満たすには足りず、川へ行く人々もいます。乾季にはハンドポンプ付き井戸からでさえも水を得ることは難しいです。水位が下がり、前の人が水を汲んだ後に待たなければなりません。川の水も乾季には干上がるため、洗濯のためにハンドポンプ付き井戸から水を得られないときには困ります。
- ◆ ネラさん（女兒、8 歳）
 - ハンドポンプ付き井戸を使っています。家の近くにあって、遠くまで歩かなくて済むので、この井戸が好きです。私の家族は川の水よりハンドポンプ付き井

戸の水を好んでいます。いまは料理用と飲用のためのきれいな水が家にあります。それに、もう学校の帰り道で水を汲みに行く必要はありません。

- 以前は、学校の後に皿洗いや水汲みのために川に行っていました。ですが、疲れること、一人で歩かなければいけないこと、そしてとても静かで怖いので川に行くのは好きではなかったです。

得られた教訓

- ハンドポンプ付き井戸を維持するためには、利用者組合リーダーの指導力が極めて重要な役割を果たしている
- ハンドポンプ付き井戸は人々の助けになったが、その水量は十分ではない。たくさんの人が飲み水と料理用の水はこの井戸から、ほかの用途の水は川から汲んでいる。
- ハンドポンプ付き井戸の深さは、乾季を凌ぐには十分でなかった。
- 井戸利用者へのフォローアップは早期に問題を止め、解決策を見つける手助けのために必要であった。

フォローアップの様子



JWF ファンド 2016 で建設したハンドポンプ



バナさん（右から 2 番目）と利用者へのインタビュー



今は使われていないハンドポンプの周辺住民へのインタビュー

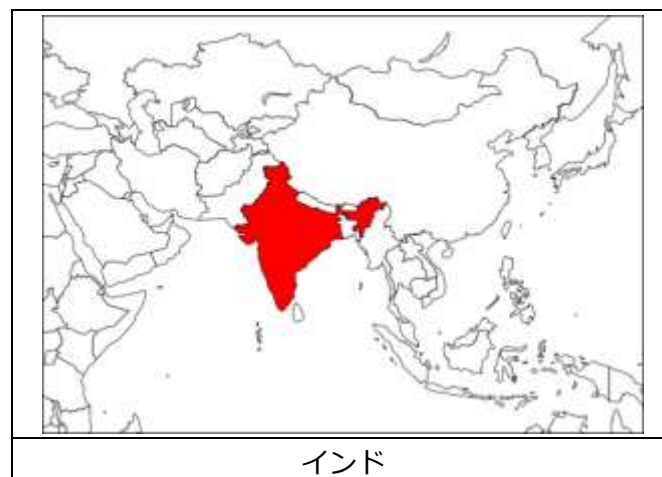


かつてのゴミ捨て場では野菜が栽培されている

(2) 農業用の水確保のための雨水貯留（インド）

1) JWF ファンド 2016 プロジェクト概要

- 実施団体：PRAGATI KORAPUT (#424)
- プロジェクト名：農業用の水確保のための雨水貯留（小規模なため池）
- 実施国・地域：インド、オリッサ州
- 実施期間：2016 年 11 月～2017 年 4 月
- 受益者数：18 世帯 102 人
- 費用：1,366.95 US ドル(JWF ファンドより 983 US ドル、地域住民の寄付 132.35 US ドル、団体の負担 251.5 US ドル、他)



実施地の課題

対象地域では、18 世帯の農家が約 7 ヘクタールの土地で小麦や野菜を栽培している。毎年雨季には一時間当たり 150 ミリから 200 ミリの大雨が降り、傾斜地であるこの農地を侵食し、農作物への被害が出る。一方で、乾季には土地が一気に乾燥し、耕作ができなくなる。長年の侵食により土地が痩せ、生産性が低下しており、農家は雨季でさえも農業への意欲が下がり、町へ日雇いとして出稼ぎに出ることを選ぶ人もいる。薪や木炭を売って生計を立てている人もいるが、森林伐採につながっている。

プロジェクト実施事項

- ◆ 事前説明会を実施
- ◆ 利用者組合を設立
- ◆ 雨水貯留施設と排水路を建設

これらの活動により、対象の農家が年間を通じて農作物を栽培できるようになったため、安定した収入を得られることが期待される。

JWF ファンド 2015 実施前のようす



乾季の農地

JWF ファンド 2015 実施後の様子



雨季の作物栽培

JWF ファンド実施後のようす



完成した雨水貯留施設



完成した排水路

2) フォローアップ結果

フォローアップは、2018 年 2 月 8 日と 20 日に、Ms. Luna Panda (PRAGATI,KORAPUT のスタッフ) により実施された。

◆ 雨水貯留施設と排水路

- 施設の効果：2017 年 4 月のプロジェクト完了後、2017 年 6 月から 9 月にかけて雨期となった。この期間、建設した施設は雨水の貯留に役立った。豪雨もあったが、これまで地表を流れていた水が設備に流れ込み、余分な水が排水路を通過して導水されたことで、農作物と土壌への被害は減った。農家たちは雨季の間にも、穀物や野菜をそれぞれの農地で栽培していたが、農作物への被害はなかった。雨季の後、堤防は少しだけ圧縮されたが、雨水貯留施設の状態は良く、雨水の流出や土壌浸食を緩和している。

18 世帯の農家が穀物や野菜を栽培している 7 ヘクタールの農地は、雨による土壌浸食や農作物への被害は受けていない。

- 魚の養殖：まだ一年目ということもあり、乾季の水位を観察する必要があるため、始まっていない。しかし、自家消費用の小規模な養殖が始められている。
- その他：設備に設置したソーラーポンプは、乾季に農作物への水やりに使われている。

7 世帯の農家は乾季の間にも野菜の栽培をしている。残りの 11 世帯は酷暑の際に水が不足するのではないかという不安を抱いているため、今年いっぱい様子を見てから決めるという。

◆ 利用者組合

- 利用者組合は、対象の農家 18 世帯と雨水貯留設備の掘削に協力した地域住民によって形成されており、地域住民もまた、野菜の栽培に設備の水を利用している。利用するだけでなく、今後も維持管理する責任も担うよう、組織を強化する必要がある。
- 雨水貯留設備の維持管理は、責任を持って参画する利用者組合のメンバーによって適切に行われている。設備の水を農業に使う農家たちは、維持管理や清掃の責任を負っている。PRAGATI は農家に対し、農業で収入が得られるようになったら、維持管理を自らの資金で行うよう促した。
農家からの要望を基にしてプロジェクトの計画と実施を行ったため、維持管理は農夫たちの責任であると納得して実施している。

◆ 生活の変化

- 農家たちは、年間を通して土地を活用できることで、収穫量の増加や収入の向上が可能になった。長期的には、土壌浸食を食い止めるだけでなく、保水力を高め、最終的には土壌を肥沃にし、農作物の生産性向上につながる可能性がある。

現場からの声

- ◆ ラジュ・サンタさん（45 歳、男性、約 2,000 平方メートルの農地を持つ農夫）
 - 雨水貯留設備の隣にある私の農地では、穀物を栽培しています。プロジェクトのおかげで、以前の 3 倍の量を収穫できています。自家消費の約 6 か月分の量になると思うととても嬉しいです。以前森で穀物を育てていたときの収穫量は、自家消費の 3 か月分にも満たず、市場で穀物を購入していました。
 - 今は野菜を育てる計画をされていて、収入が増えると思います。私の農地がもう雨の影響を受けることはありません。私の家族は穀物の収穫量が増えたこ

とに喜んでいます。今は安定して農作物を育て、収穫することができます。

- しかし、この村の人が持つ多くの土地は高台にあり、灌漑設備がありません。農作物は不安定なモンスーンの影響を受けやすいです。こうして働くことのできない住民は、森林伐採の原因となる薪や木炭を売って収入を得ています。
- ◆ ディバカール・ジャニさん（46 歳、男性、雨水貯留設備の近くに土地を持つ農夫）
 - 私は、雨水貯留設備の近くの農地で穀物やトマトを栽培しています。以前は、穀物は自家消費で、トマトは近くの市場で販売していました。
 - 雨水貯留設備のおかげで、私の農地と農作物は流出した雨水から守られました。また、雨季の雨が降らない数日も、作物を枯らすことなく水をあげることができました。土壌浸食が減るにつれて、土地の生産性は上がると思います。
 - しかし、この村の大きな課題の一つは、灌漑設備がないことです。不規則な雨と気候の変化により、状況は悪化しています。乾季に農業ができず、近隣で働くこともできません。たくさんの少年や少女が町へ出かけ、家族のために働いています。
- ◆ トリナス・サンタさん（25 歳、男性）
 - 私は雨季と乾季に、農作物に水をやるために雨水貯留設備を活用しています。私の家族は、主食である穀物を雨季の間に育てていました。
 - もう、私の農地は雨季に土壌浸食の影響を受ける心配はありません。いまは野菜も育てています。住民たちは、雨水貯留の重要性を理解し始めています。私と家族は、今は定期的に作物を育てていて、家族はもう村の外に働きに行く必要はありません。
 - この村の一番大きな問題として、灌漑設備や気候変動、投資の不足といった課題があり、農業は割に合わないと感じる若者たちが農業から離れていっているように感じます。

得られた教訓

このプロジェクトは、村の農家や近隣の村の住民の治水や雨水の貯留、農業への利用のための意識を高めた。ソーラーポンプで水をくみ上げることにより、乾季でも様々な農作物を育てることのできる可能性が高まった。これにより、農家たちは計画的に作物を育てることができるようになった。また、このプロジェクトは、土壌浸食の緩和と土壌の保水力向上に寄与した。近隣の村の農家たちは、地理的条件も似ていることから、同様の活動のために政府の制度の利用を検討している。

フォローアップの様子



2016 年に建設した雨水貯留設備（雨期）



近隣の村の住民の視察



雨水貯留設備の周りの農地



農地を耕す農婦

(3) 中・高等学校における衛生設備の修繕・建設と水と衛生の促進（インド）

1) JWF ファンド 2016 プロジェクト概要

- 実施団体：PHD Rural Development Foundation (PHDRDF) (#449)
- プロジェクト名：中・高等学校における衛生設備の修繕・建設と水と衛生の促進
- 実施国・地域：インド、スィーカル州
- 実施期間：2016 年 11 月～2017 年 4 月
- 受益者数：直接受益者数 272 人（女子生徒 140 人、男子生徒 120 人、教師 12 人）、間接受益者数人 1,360 人
- 費用：1,149 US ドル（JWF ファンド 1,000 US ドル、団体の負担 149 US ドル）



実施地の課題

スィーカル州では、水確保の難しさや、1 人あたりの所得の低さが、農村部の人びとの衛生状況に影響を及ぼしている。対象の学校では、衛生設備が破損しており、生徒が使える状況ではない。しかし、学校の財源は乏しく、壊れた衛生設備を修理することができないうえに、水不足によりトイレを使用することもできない状況が続いている。トイレがないために欠席する生徒も見られ、特に女子生徒はトイレのために自宅に帰り、男子生徒たちは野外で用を済ませている。

実施事項

- ◆ 事前調査を実施
- ◆ 既存トイレを改修
- ◆ 手洗い場兼水飲み場を設置
- ◆ 水質検査を実施
- ◆ 水と衛生に関する委員会を設立
- ◆ 水と衛生に関する啓発活動を 2 回実施
- ◆ 事後調査を実施

これらの活動により、学校に通う生徒と教師が年間を通じて水と衛生設備を利用できるようになったため、学校の学習環境の改善が期待される。

JWF ファンド 2015 実施前の様子



学校の既存トイレ



学校の既存給水設備

JWF ファンド 2015 実施後の様子



改修した女子生徒用トイレと手洗い場



完成した手洗い場で指導を受ける生徒たち

2) フォローアップ結果

本フォローアップは、2018年3月19日 Ms. Shreya Verma (PHDRDF のスタッフ) により実施された。

◆ トイレ

- トイレの使用：改修した女子生徒用と男子生徒、教師用のトイレは、生徒と教師が適切に使用している。以前はトイレが機能しておらず、生徒たちは野外排泄をしていたほか、手洗い場が学校になかった。
- 生徒と教師には、野外排泄ではなくトイレを使用するという良い行動の変化

が表れている。特に女子生徒にとっては、排せつのために遠くまで行く必要がなくなり、学校の敷地内で安全にトイレを利用できるようになったことはとても有益である。

- トイレの清掃：トイレを清潔に保つため、学校役員が雇用した掃除人により定期的に清掃されている。これにより、維持管理は問題なく行われている。
トイレの肥溜めは約 2～3 年で満杯になるが、その際は学校が対応する。校長は汲み取りを行うことを約束し、地方政府も必要があれば協力する。
- 汚物は乾燥させたのち、肥料として使用する。

◆ 手洗い場

女子トイレに建設された手洗い設備は機能しており、手洗い習慣の定着につながった。140 人の女兒に対する蛇口の数と水の量は十分である。

◆ 水飲み場と排水溝

2016 年の水飲み場の改修直後は、飲み水に適していなかったため手洗いのみに使用することとしていた。その後、地域政府の協力による対応が行われ、いまは安全な飲み水を得られるようになった。生徒たちは手洗い用と飲み水にこの水を使用している。手洗いの水があふれないようにするため、水飲み場の隣に排水溝を設けた。この排水溝は、排水を集めて地下水涵養のために建設した。

◆ 水と衛生に関する委員会

水と衛生に関する委員会は機能している。昼食前の手洗いと生徒が定期的にトイレを使用し維持するため、教師と生徒が指導している。

◆ 受益者の変化

- トイレがきれいに維持されているだけでなく、便利になったことに生徒たちは喜んでおり、学校に通うのが楽しみになっている。
- 教師たちは清潔さに敏感になり、衛生習慣を守るようになった。生徒に対し、同じように習慣を守るよう指導している。
- 学校の役員は、維持管理の必要性に対応するため、清掃員を雇って設備を清潔に維持できるようにした。また、地方政府に安全な飲み水を供給するよう交渉した。

現場からの声

- ◆ サタヤ・ヴェールさん（男性、学校長）
 - 生徒の間に、従うべき衛生習慣を意識するといった良い変化がありました。生徒たちは手洗いを習慣化し始め、不衛生に起因する病気の発生率が減りました。学校の周囲も以前よりきれいになりました。なにより、生徒たちが以前より定期的に学校に通っています。
 - 生徒たちは、トイレを使用してきれいに保つ、といった良い衛生習慣を守っています。水と衛生に関する委員会による手洗いの指導は、定期的に実施されています。
- ◆ ヴィジャ・プラカシュさん（男性、学校の教師）
 - 私もトイレを使用していますが、便利で安全ということが分かりました。健康を保つため、適切な衛生設備と衛生習慣が学校でも家庭でも重要であるということを理解しました。
 - 生徒は安全な飲み水と手洗いの効果、トイレを利用することと維持していくことについての知識を得ました。
 - 生徒、特に女兒たちはトイレを安全に利用できるようになりました。これにより、毎日の出席率が向上しました。また、生徒たちは、定期的に行われる手洗い講座に参加しています。手洗いの順番が描かれたペイントは、生徒がきちんと自分の手を洗うのに役立っています。
- ◆ アージュン・ラルさん（学校に通う男児）
 - 学校でトイレが使えるようになってとても嬉しいです。以前は学校でトイレが使えず、近くの野原に行かなければいけませんでした。また、学校の手洗い場や水飲み場もさび付いていて安全ではありませんでした。僕も友達も学校の中でトイレが使えるようになったこと、そして色鮮やかなペイントの水飲み場で手が洗えてとても嬉しいです。
 - 僕も友達も、生徒みんながトイレを使うこと、以前はあまりしていなかった手洗いをする、といった衛生習慣を守っていると感じます。これのおかげで、間違いなく環境が良くなりました。生徒たちが良い衛生習慣を身に着けるための手洗い場の設置とトイレの改修は、変化に向けた大きな取り組みでした。改修された水飲み場に新しく蛇口がつけました。水と衛生に関する委員会は、定期的に手洗い講座を開くので、食事の前に手を洗うことを忘れずに済みます。

得られた教訓

- 村の人々へのインフラの提供は、その重要性を教師と生徒に理解してもらい、適切な維持管理がされていくことを確実にするため、習慣向上の講座も併せて実施する必要がある。
- プロジェクト開始時点からの学校役員の参画は、プロジェクトを円滑に実施するためだけでなく、プロジェクト完了後の持続可能性のために重要である。
- 手洗いの指導といった実践的な指導は、新しい習慣を定着させる。
- 新しい設備の導入と習慣の変化による良い効果が、学校役員と生徒たちの1) 設備の適切な利用と維持管理、2) 清掃員の配置、3) 地域行政の安全な飲み水確保のための協力を促した。

フォローアップの様子



2016年に改修した女子トイレ



トイレの内部はきちんと清掃されている



手洗い講習のようす



学校役員と教師とのミーティング

以上